

## 施餓鬼について

前回までは、お盆の棚行にお読みする経文について書いてまいりましたが、今回はお盆のお施餓鬼に読む経文を取り上げたいと存じます。どちらもお盆の行事でありますので、その目的は同じものです。つまり、御家庭で棚を設けて御先祖さまをおまつりすることも、お寺で施餓鬼会の法要を営なむことも、その志は同じです。

ところで、「施餓鬼」と言う言葉の意味を考えてみると、文字どおり、餓鬼に施すと言う意味です。では、餓鬼とは何をさすのでしようか。仏教では、この世において悪業をなしたものは来世で六道の中の餓鬼道に落ちて苦しみを受けると言い、その苦しみとは飢渴であると考えられます。この餓鬼にもいろいろあつて、中でも焰口鬼が阿難尊者にあと三日の命であることを告げ、阿難尊者はお釈迦さまの教えを受けて一切の餓鬼に無量の飲食を施して、苦を脱することができたということが、『救拔焰口餓鬼陀羅尼経』に説かれており、これが、「施餓鬼」の起こりであるといわれています。

つまり、餓鬼は修道の障害をするものであるから、飲食を施して障害をなさなくさせようというのが、元々の「施餓鬼」の目的であつたのですが、その善根功德によつて三界万靈有縁無縁の亡霊得脱、さらには志す精霊の追善に資する目的を持つようになったのです。

次に、施餓鬼会に読む淨食加持の偈文を読んでみたいと存じます。

神呪加持淨飲食　普施恒沙衆鬼神　願皆飽滿捨慳心　速脱幽冥生善道

歸依三寶發菩提　究竟得成無上覺　功德無邊盡未來　一切衆生同法食

内容をみますと最初の「神呪加持淨飲食」から「究竟得成無上覺」の部分と最後の二句との二つの部分からなっております。すなわち、清淨な飲食（おんじき）を神呪加持（神呪をおとなえする）して、恒沙（ガンジス川の砂の数ほど）の様々な餓鬼たちすべてに施す。願わくは皆が飽滿して、慳心（餓鬼の苦しみである飢渴にとらわれた心）を捨て、速やかに幽冥から抜け出して正しい道に生まれることを。三寶（仏法僧）に歸依して、菩提（自ら修行を重ねて仏教を学び、ついには悟りをひらいて仏となつて、いまだ苦しんでいる衆生を救おうとする心）をおこせ、ついには無上覺（最高の悟りの境地）を得るのである。以上の部分が餓鬼に対する内容であつたのにたいして、最後の二句は、この餓鬼に施したことの功德は非常に大きく、永遠に限りないものであり、一切の衆生へすべての生きとし生けるものにも同様に、法食（仏教の真理をいたたく）を得る、というように「回向」することが内容なのです。

つまり、御先祖さまが餓鬼道に落ちたから施餓鬼をするのではなく、餓鬼に供養して、その功德を御先祖さまの追福に振り向けることなのです。ただし、私たち凡夫の身では知らないうちに罪を犯して、餓鬼道に落ちないとは限りません。お念仏をお唱えして罪を懺悔することによつて、お淨土に生まれさせていただくことができずから、毎日の心掛けが大切と申せましょう。